

ほほえみ

第65号(令和4年7月)
発行：小山市教育委員会



「いじめゼロ子どもサミット」(10年目)開催

期日：5月17日(火) 会場：小山市役所6階大会議室

主体的な話し合いを通して、児童生徒が自らいじめのない明るく笑顔あふれる学校にしていくことをめざして実施している「いじめゼロ子どもサミット」も今年で10年目を迎えました。

今年のサミットでは「いじめゼロに向けてわたしができること～いじめにつながるネット利用から考えよう～」をテーマに、各中学校区、義務教育学校と小中一貫校のグループで、児童生徒が協議しました。前半は「ネットいじめ」の事例をもとに「どうしてネットがいじめの道具になるのか」について話し合いました。後半は、「ネット利用でいじめにつなげないために何ができるのか」を考え、話し合いました。そして、それらを踏まえていじめ防止に向けた自分の行動宣言を作成しました。代表児童生徒の真剣に話し合う姿から、「自分たちの手でいじめを撲滅していこうという強い思い」が感じられました。サミット当日の様子を一部紹介します。

グループ協議① 「どうしてネットがいじめの道具になるのか？」

「この事例の問題点は何か？」

- ・同調してしまう。その場の空気に流されてしまう。
- ・みんなの意見に反対すると、自分がいじめの対象になってしまう。

軽い気持ちで。1対大勢になりやすい。
罪の意識が低い。拡散しやすい。

「どうしてネットがいじめの道具になるのか？」

- ・相手の顔が見えない。
- ・相手の気持ちを考えずに行動してしまう。
- ・相手の表情や気持ちがわかりにくい。
- ・言葉だけで判断してしまう。

相手の傷ついた表情が見えない。相手を傷つける言葉を言いやすい。周囲が気付きにくい。



グループ協議② 「ネット利用でいじめにつなげないために何ができるのか？」



「自分としてできることは？」

- ・受け取る側の気持ちを考える。
- ・相手が勘違いするような言葉を送らない。
- ・言葉を選ぶ。送る前に必ず確認する。
- ・不確かな情報や真実でないことは絶対に送らない。

「わたしの行動宣言」

- ・自分と異なる意見、特徴を「個性」として受け入れ、決して悪く言うようなことはしません。
- ・学級全体で相談しやすい雰囲気づくりをします。
- ・メッセージを受け取る側がどう感じるかを考えて、言葉を選び、相手のことを一番に考えます。
- ・顔が見えないからこそ、いつも以上に一つ一つの言葉に責任をもちます。
- ・学校全体で会話を大切にし、よいコミュニケーションを取ります。

「学校としてすべきことは？」

- ・相手の気持ちを考えた言動を普段からとる。
- ・いじめの怖さを伝えられる環境づくり。
- ・相談できる環境づくり。
- ・困っている人、苦しんでいる人をみんなで支える。



実行委員からのメッセージ

※一部紹介



いじめは深刻な人権侵害です。ふざけていた、遊びのつもりだった、冗談だった、そんな深い意味はなかったなどのどんな言い訳も通用しません。今日のテーマは「いじめゼロに向けてわたしができること～いじめにつながるネット利用から考えよう～」でした。答えはひとつではありません。私たちがこの問いについて考え続けていくことが、ひとつの答えなのではないでしょうか。今日のサミットで話し合い、活動したことをこの場だけのもの、ここにいる47人だけのものにするのではなく、各学校に持ち帰り、全校体制で取り組むことで、自分たちの学校、そしてこの小山市からいじめをなくしていきましょう。そして、自分たちの学校を、一人ひとりが大切にされ、笑顔があふれる学校にしていきたいましよう。



子どもたちの思いを受け、大人としてどんな支援ができるか一緒に考えてみませんか？

『第43回 人権講演会』のお知らせ

- 日時：令和4年8月18日(木) 12:45開場 13:30開演
- 場所：小山市立文化センター 大ホール ※入場は無料です。
- 演題：「スマホ世代の子どもとどう向き合うか」
～SNS、ゲーム、ネットいじめ問題を考える～

■講師：石川 結貴(いしかわ ゆうき)氏〔ジャーナリスト〕

※来場前及び当日会場での検温、マスクの着用、手指の消毒等にご協力ください。
※事前申込みが必要です。7/29〆切 電話、FAX、申請フォームからお申し込みください。
生涯学習課 Tel 22-9663 Fax 22-9650 人権・男女共同参画課 22-9292

